T・H・ホリングスワース「英国貴族に関する人口学」

T. H. Hollingsworth, "The Demography of the British Peerage", Supplement to *Population Studies* Vol. XVIII, No. 2, 1964, 108 pp.

ヨーロッパ諸国の過去数世紀間に関する人口史の研究活動は，国際学会の開催，論文集の刊行，雑誌論文の発表などを通して，近年非常に活発化している傾向が見受けられ，この分野の研究は，西欧社会の工業化とデモグラフィック・トランジションとの関係の長期的な追跡研究におもな関心がおかれているように思われるが，また，とくに縦断的・コーホート的資料を駆使した研究は，人口生物学的ないしは集団遺伝学的興味もその中から引き出しうる可能性をもつものと考えられる。さらにまた，人口史的基礎資料は，過去にさかのぼるほど不完全性と不正確性とが急速に増大するのが一般であるが，これらの資料をも含めて，長期的な人口変動のあとを，静態動態の相互関連において再構成するためには，近代的人口学的技術の最高水準が要求されるという意味で，形式人口学的にも興味深い研究分野である。

ここに取り上げる論文は，16世紀半ばより今世紀半ばに至る約400年間の英国貴族とその子孫に関する極めて興味深いコーホート的追跡研究である。著者は英国 University of Glasgow の Carnegie Research Fellow で，すでに英国貴族については1957年に "A demographic study of the British ducal families" という論文を *Population Studies* 誌に発表している新進の人口史学者である。

ヨーロッパ諸国で，人口史的研究にとって比較的利用価値の高い記録資料が，比較的よく保存されている貴族階級や上流階級のうちでも，英国の貴族階級は，その範囲の明確なること，長期間の継続性を有し，また時代的細分を行なってもなお人口数が比較的大きいことなど，人口史研究には最も有利な研究対象であることが，D. V. Glass の筆になる本論文の序文にのべられている。

本論文は，第1章　緒言，第2章　結婚，第3章　出生力，第4章　死亡率，第5章　結語の5章からなるが，基礎的統計資料の解説とその評価に関する詳細なる巻末付録，ならびに約150種にのぼる参照文献のリストがのせられている。結婚，出生，死亡のいずれの統計的分析も，最大範囲1550～1949年の400年にわたる期間を25年間ごとに区分した各出生コーホートをとらえて行なわれていることは，基礎的統計資料のまれにみる豊富さを物語ると共に，技術人口学的方法の苦心のあともうかがわれる。

著者はこの研究による主要な発見としてつぎの三つの点をあげている。(1) 18世紀の初―中葉に顕著な人口革命が見られ，これは英国一般人口における傾向と類似している。(2) しかし時代的に詳細にみると，貴族階級の人口革命の進行は一般人口のそれより約1世代間隔ほど先行して起っている。ただ，乳児死亡率だけは一般人口よりも約1世紀早く低下を開始している。(3) 人口動態諸率の点で，現在では貴族人口は一般人口に非常に接近している。ただ例外は離婚率で，これは貴族階級においては極めて高い。

長年月にわたるコーホート的人口史研究における最も興味ある課題の一つは，世代再生産力に関するもので，著者も，各出生コーホートについて，出生時および15歳生存時における世代純再生産率の算定を行なっているが，欲をいえば，各血統ごとの再生産率の差異，つまり生物学的により多く子孫を残した系統，より少く残した系統，断絶した系統等の立場からみた集団構造の dynamics の分析がつけ加えられたならば，人口生物学的にもより大きな寄与をもたらしたことと思われる。ともあれ，この論文は近代的人口学的テクニックを十全にとり入れて行なわれた人口史の近代的な研究労作として高く評価さるべきものである。

（小　林　和　正）